

「タケハラジェンヌ」3人目は、気象予報士として活躍される塚原美緒さん。テレビで放送される天気予報は約2分。限られた時間で予報するためには、予報士としての知識はもちろん、防災の知識、そして言葉選びも大事とのこと。「天気」を「理論」で捉える、専門的なお話を聞くことができました。

気象予報士を目指したきっかけは？

小学6年生の頃から意識していました。卒業文集に将来の夢を天気予報士と書いていたり。昔から植物が好きで、その頃は毎日寝る前に植物図鑑を開いていました。そんな時に気象予報士の方がテレビで季節の花を紹介するのを見て、いいな、私もやりたい！と憧れたのがきっかけです。当時は天気よりも植物を紹介する人になりたくて。

ただ、数学や物理への苦手意識もあり一度は諦めていました。転機となったのは、大学卒業後、新聞社に入社してから。平成26年8月20日に起こった、広島市土砂災害です。

●地域のために動きたい

地域のために動きたいという思いは持っているのに、何もできない自分にもどかしさを感じました。次にこういった事が起きた時のために、気象や防災の知識を少しでも身に着けようと思い勉強を始めた事が、今につながっています。

―今回の豪雨について

今回の豪雨は、気象庁が事前に記者会見を開くほど、警戒されたものでした。私自身も、予報でかなり強い言葉を使っていたんです。「これまでにない大雨です。」とか、「これまでにない大雨になりつつあるので、これまで大丈夫だったというのは一切通用しません、自分だけは大丈夫だと思わないでください。」そんな言葉を、天気予報で使ったのは初めてでした。

―ひとには、「自分は大丈夫」と思ってしまう感覚があるそうですね。

心理学の考え方の一つとして、人は、根拠はないのに漠然と「自分は大丈夫」(正常性バイアス)と思ったり、もしくは「今まで何もなかったから、大丈夫。」(経験の逆機能)と考えてしまう傾向があるそうです。

●説得力のある解説を目指して

視聴者の方により強く呼びかけるには、天気の事だけではなく、様々な知識が必要だと感じています。心理学や防災学もその一つ。もちろん闇雲に警戒を促すのではなく、実際の状況に応じて言葉の緩急を使い分けられるよう、まだまだ勉強中です。

―7月中旬に、不思議な経路の台風12号が発生しました。夏真っ盛りの頃は、上空の風が弱いので台風が迷走しやすいんです。今回は、高気圧と寒冷渦の影響でぐいっと西に曲がりましたが、いつも同じとは限りません。

●「台風」に「普通」はない！

どういうルートで来ようと、台風は台風。危ない、気を付けようと思つて頂くのが一番望ましいと思います。



▲台風の経路や特徴について、分かりやすく説明してくださいました。

* 塚原美緒さんのプロフィール *

広島テレビで活躍中

笑顔の素敵な気象キャスター

竹原市出身。平成26年8月20日の土砂災害をきっかけに一念発起し、平成28年に気象予報士の資格を取得。

平成29年よりウェザーマップに所属し、広島テレビ放送で気象キャスターの活動を開始。主な出演番組は「テレビ派」。花屋さんめぐりや書道を趣味とする一方、フルマラソンを走り切るなど、体力にも自信有。

広島県「みんなで減災」推進大使。

●尊敬する女性？

気象予報士の勝丸恭子さんです。解説の絶妙な言葉選び、地域に沿った予報、緩急のついた報道、すべてに憧れ、尊敬しています。

―「今回は大丈夫、自分は大丈夫」という気持ちを抑えて避難行動をとることが大事ですね。

豪雨災害が起きてから、「空振りを恐れずに逃げる」ことが大事だと色々なところで言われています。雨量がある程度予想できて、土砂災害の危険が高まっていることが分かったとしても、実際にどの斜面が崩れるかということまでは分からないんです。最終的に、命を守るための第一行動を取れるのは、やっぱり「自分」です。

●「災害に備える」ということ

ハザードマップで、自分が住む地域の危険について知ることもできますし、避難場所は市が指定している場所だけではなく、親戚や知人の家でもいいんです。家族との連絡手段や、何かあったときに集まる場所を決めておくのも、普段からできることの一つですよ。また、ご近所の方の状況を把握しておく、いざという時に声を掛け合うことができます。「防災」と言いますが、自然災害そのものは決して防ぐことはできません。どうやり過ごすか、そのための手段を身に着けることが大事なんです。